大日本國東山道陸奥州

從鳥郡
至伊達郡

驛路圖壹

亥二
182

国立国会図書館　タイトル『大日本国東山道陸奥州駅路図』　請求記号 亥二-182

ガラス使用

第　號
龜井家藏書

國立國會圖書館

危地名神祠佛刹廢城墳墓街蹊鄉村
古今沿革ハ六國史延喜式和名鈔及雜史
軍忠歌集物語等又慶長年間まて家々の
記載ある見ゑる所を考へ遠近の山野を眞写
驛路の產物を顯し四維を弁し
磁針を按して方隅を定むるもの
寛政十二年春正月

タイトル『大日本国東山道陸奥州駅路図』　請求記号　亥二-182
ガラス使用

大日本國東山道陸奥州驛路圖卷第一

敷別神都

奥別須加河驛

同別二木松驛

同別栗杵驛

秦檍麻呂圖

安藤重之校合

矢嶋道政校合

久保勝道校合

白河郡 之良加波

石河郡

岩瀬郡

安積郡

安達郡

信夫郡

伊達郡

和名鈔曰 國分為高野郡今分為大沼河沼二郡

伊波世 國分為伊達郡

阿佐加

安多知

志乃米 國分為伊達郡

驛三十二行程貳拾八里余 壹里五町ヨリ法の半ヨ 圖画ナシ写ス

国立国会図書館　タイトル『大日本国東山道陸奥州駅路図』　請求記号　亥二-182

ガラス使用

東鑑曰文治五年八月廿五日二品越白河関給
関明神御奉幣此間召景季當時和歌也能因
法師古風不思出哉之由被仰出景季和歌一首
秋風に柳ぬ川の露ヲ掛セテ
君カ越レハ関守モナシ

古への駅路ハ関山の麓な通り白河駅よりも
今ハ道治草セり古関蹟碑曰
白河関蹟堙没不知其處所著久矣旗宿村西有
叢祠地隆然而高所謂白河歟其下而流焉考之
圖史詠歌又徴地形老農之言允其為眞址較然不
疑也迺建碑以標焉爾
寛政十二年八月一日
白河城主従四位下行左近衛權少將源越中守
源朝臣定信識

関山観世音

成就山滿願寺光明院本尊觀世音菩薩一寸六分
天平勝宝七年七月九日僧行基安置

和名鈔曰白川

白河城市 廿七丁 廿四間 一里 至根田驛

戸千五百
土産 紙漆器 絹

文明十三年三月八日小峯政朝
鹿嶋の神前ニ奉納連哥一万句の中
月日の下よりもりこえて住めとも
難句出て集入ものこそうる時
神女形して連哥しそ曰
やるみの奥よりあらそもこめてと
なして行方もしらぬ雪ぞふる
宗祇法師ハ万句濟てより松の
下もえだしもとも迄ふもれる
ばかりこそ

黒俗古傳云弁ふ
こもの口外関の東の名弁
須の末ハ古ふ川とある

野列
奈須
白川郡界

関明神祠 一日 明福

和光山豊神寺 衣ヶ井

旗宿村

皮籠村

金ヶ嶽祠

白坂驛 四丁 廿四間 一里廿二丁 至ル白河驛

戸七十五
産

奈須領

甲子峯

大隈河源

甲子峯ヨリ奥ノ滝ヨリ
傍ヒノ岩ヨリ熊ノ形ヲ
似リ其河流数ノ大熊
河ニソヽリ

北沙門峯
藥師峯
旭ケ峯

櫻岡村
白河神社
鹿嶋村
宗祇もと
櫻町
小峯古城
田町
川原町
橋町
本町
中町
天神町
見張り茶や
九番町
七番町
三番町
二番町
一番町

合戦坂

国立国会図書館　タイトル『大日本国東山道陸奥州駅路図』　請求記号 亥二-182

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『大日本国東山道陸奥州駅路図』　請求記号 亥二-182

ガラス使用

烏ノ峠
イヤリ村

初十日
人馬
矢吹継

踏瀬驛 三丁余
大和久驛
廿丁

戸二八十

二ツ坂 左右坂

四ツヤ

赤坂

羅漢

小田川より
来十日
人馬継

大和久驛 四丁
至中畑新田驛
十一丁

戸二十八

大田川中古
人馬継

中畑新驛 三丁
至矢吹
驛八丁

戸二十五

来十日踏瀬より
人馬継

矢吹驛 六丁
廿三丁
至久来石驛
廿三丁

戸七十

久来石驛 二丁余
至笠石驛
十三丁

戸二八十

石川岩瀬郡界

八溝道

白河石河郡界

長沼道四里

和名鈔に白河郡の
中に石河の郷あり後郡と
なる

二ツ岳

此山ふ石像羅漢を彫しゝ
空海の作と云傳ふれども
寛永九年五月九日二郎兵衛
施主と二基の石塔あり一基ハ
須藤二郎兵衛女房と記しゝ
須加川驛の住人なるゝ

国立国会図書館　タイトル『大日本国東山道陸奥州駅路図』　請求記号 亥二-182

ガラス使用

白髭城

うり茶

北町

中町

本町

新町

廃城

鞭楽堂川

下宿村

岩瀬郡郡庁跡

中宿村

須賀川驛 十九丁 九間

戸七百余

土産 紙線香

市日 三八

市中より廃城迄り二階堂氏在城せしより天正十七年伊達貞山より毀られしより廃ル

驛西一里そかりより稲村とゝけり

猶風景長建暦三年岩瀬の郡に配流せられ其後於配所薨ず今より墓とり

かさもり山

八幡岳

至笠川驛 一里廿八丁

笠石驛 二十余

一里十八丁

戸五十七

土産仮名酒

高田村

鏡沼村

笠森

つりた岳

勢至峠

国立国会図書館　タイトル『大日本国東山道陸奥州駅路図』　請求記号 亥二-182

ガラス使用

小ちゝ山

釜田山

大滝山

ちゝが山

大隈河

笹川驛 三十余
至日出山驛
十八丁

岩瀬安積郡

滑川村

十貫内村

笹原村

茶ヤ河

安養寺旧跡

日出山驛 二十余
至小原田
驛 十五丁

戸五十三
土産不老酒

小原田驛 三十余
至郡山驛
十五丁

戸百余

郡山驛 八十間
至福原驛
七五丁

戸二百五十
土産繭紅花餅
市日五十

大重

治暦古碑

高森山如法寺

ちゝが長者旧跡

如法寺境内ニ建保七卯年二月日
記セル碑 小堂ヲ安置セリ而
ソノ前ニ建治二年ト刻リ
顕ハル梵文釋字悲母五七日
則立如件 筆者敬白トアリ

何レノ頃ヨリ唐ヨリ長者ト云ヒシ者
住ヒシヤ古ヨリ古鏡ト古瓦銅
器ノ類ヒ掘出シテハ藏セシ
者アリ亦伊藤氏ノ人ハ
住ヒシヨリ伊達奥山ト號セシ
ヨリ云ヒシト

驛北入口ニ治暦ノ古碑アリ梵文
数字僧名ト見エテ刀阿数日頼日
此外十人ヲ書シ號願主トアリ
者ノ名ヤ衛尉ヤ物トアリ

国立国会図書館　タイトル『大日本国東山道陸奥州駅路図』　請求記号 亥二-182

ガラス使用

和名鈔曰安積郷

檜和驛 五丁余 至高倉驛 十里一丁

戸百五十
土産 鑄器 鍋釜 上品
鑄師 佐藤 日下 鈴木 石澤

ゆさう山

茶や

蛇骨地蔵堂

さよ姫堂

ゆさう沼跡

五百河

安積安達郡數

ほさう滝

ふくだ川

久保田村

大滝沼

福原驛 十八丁 吉間 十二丁 至日和田驛

戸百余
産

高倉驛 五丁余 至本宮驛 一里十一丁

戸六十五

延喜式頭書曰延喜六年七月廿日 安積郡置安達郡 東鑑曰 安達綿

驛より西は廢城なり 云傳ふ安積五郎門と いふ人住りさよ姫は其女なるよし東鑑を 按るに寛領二年安積六郎五郎門尉祐長 云々り建長の頃は薩摩前司祐長の おのれ一人なり此城主なるべし

国立国会図書館　タイトル『大日本国東山道陸奥州駅路図』　請求記号　亥二-182

ガラス使用

土産 蒲

里俗云傳ふ三郡一古城文明
年間二本松城攻頽白山滿盛
男政泰住い天正年間氏ゝ高倉
と改近江守ことより其後伊達
貞山より降り後館廢しゝり

古城址

大隈河

仁井田村

會津道

古城址

岩さく

茶師堂

松口

つゝら山

大かつら山

片平村
山の井

至會津道

本宮驛 十二丁
至二本松驛
一里十八町

戸五百
土産 繭 蚕卵紙
綿帽子

岩角山

南杉田驛 二十余
至二本松驛
一里十丁

戸六十
土産 温石

北杉田驛 二丁
至二本松驛
一里六丁

戸四十六

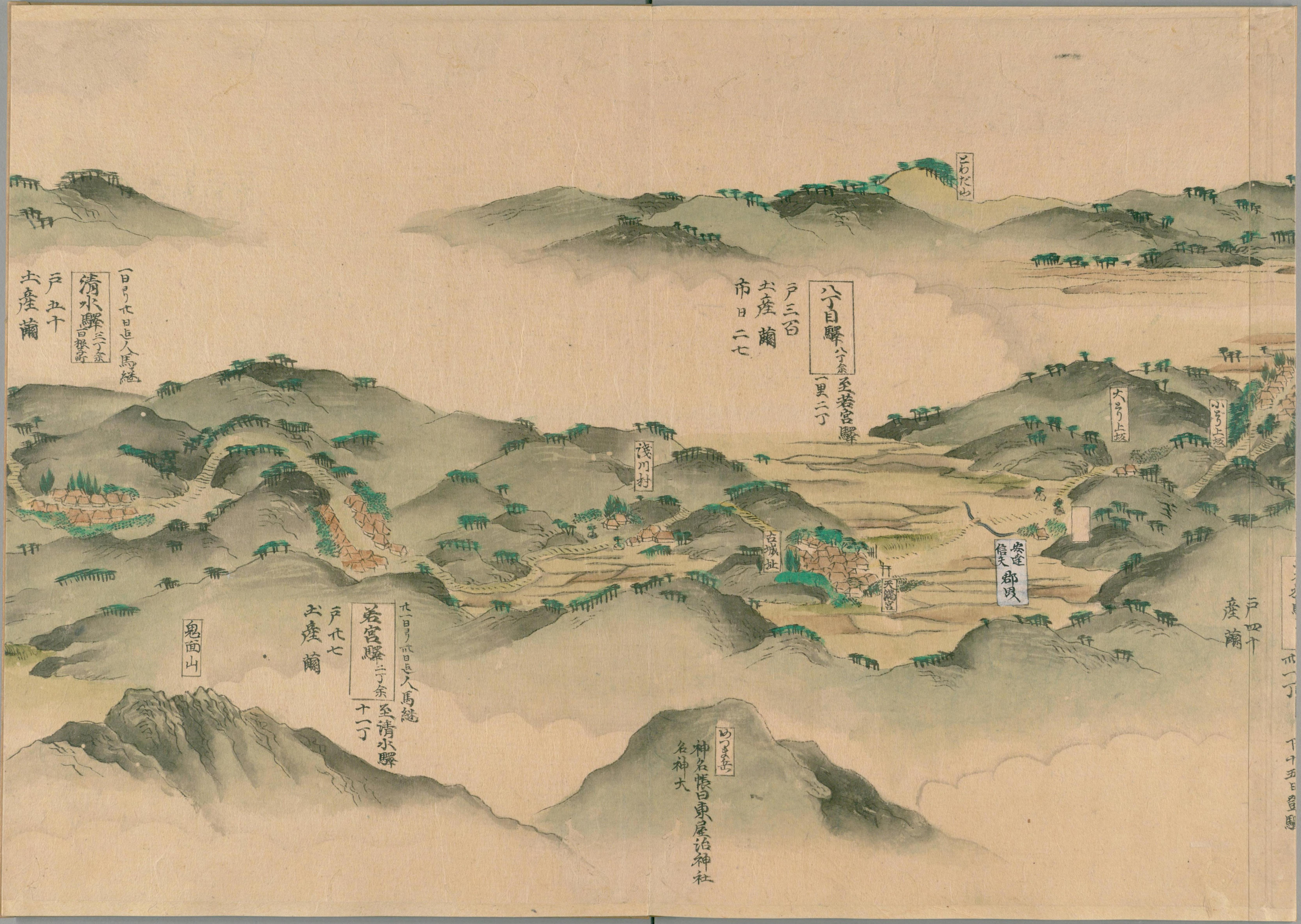
国立国会図書館　タイトル『大日本国東山道陸奥州駅路図』　請求記号 亥二-182

ガラス使用

大平村
くろ塚
大隅河
くろ坂
八ぐん七番や
道
福岡村
安達太郎圓東寺
戸六十
産蘭
由井驛 四ノ宗
至二本柳驛
七丁
二本柳驛二ノ宗
至八丁目驛
十五日登驛
城ハ驛西北山上ニ在リ代々畠山氏
奥州の探題ニて置れし所
右京大夫義純より伊達貞山の
為ニ滅亡せしとぞ
豆腐町
猿寄町
竹ぼ町
亀ヶ谷町
松岡町
木町
若宮町
豆腐町
大ぶん
一文字岩
二本松假居城
二本松城市 北四十余
一里二丁
至由井驛
戸千
土産 氷餅 上品
雉
正法寺村
土産
麻紙 細袋

国立国会図書館　タイトル『大日本国東山道陸奥州駅路図』　請求記号 亥二-182

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『大日本国東山道陸奥州駅路図』　請求記号 亥二-182

ガラス使用

下檜石
山口村
千貫森
古城址
椿館トモ
伊賀良目七郎
高重居址
五十部村
越の沢村
下檜石
本内村
小山村
馬喰町
小山宿
本町
桝町
大熊河
黒岩山満願寺
郷目村
大平寺村
荒河
松河
須河
米澤道
福嶋城市
戸七百余
至濱上驛
二里八丁
土産 信夫毛地摺絹
絹 上品
諸類数品 紙
雨桐油紙 煙草入
職人弁舎の中山日
比山城里俗志のふ
山とらり
志のふわさらぞ

国立国会図書館　タイトル『大日本国東山道陸奥州駅路図』　請求記号 亥二-182

ガラス使用

霊山
相馬道
伊達崎村
羽州道
桑折駅 十字
戸三百九十
土産 繭綿 上品
紬糸 蚕卵紙
至藤田駅
一里七丁九間
満勝寺村
伊達念西墓
うぶ澤
古墳
岡村
川原村
伊達郡
信夫
桑折駅
川原村
古墳
福上河舟渡
瀬上駅 八丁余
至桑折駅
一里十二丁
戸百六十
土産 綿 上品
蚕卵紙
鎌田村
八反河
佐藤庄司旧跡
佐藤野村
古書に伊達郡あり和名鈔
安達郡中に伊達の郷と載る
今桑折駅は伊達嶋村なり
此也郡名の起りあらん

国立国会図書館　タイトル『大日本国東山道陸奥州駅路図』　請求記号　亥二-182
ガラス使用

高寺山

級麻呂古城

國司古城

兒岩

ヒラボウ山

梁河市

大久保村

國見山

一百經ヶ岡

伊達大善旧墟

奇應現石

滝川

下西村

國見社

石切田村

義經ニレノ松

藤田驛 六丁余

至長田驛 八里七丁十八間

戸出産 繭綿 上品

小坂峠

小坂驛

東鑑九曰文治五年八月七日二品著陸奥国伊達郡阿津賀志山辺国見澤泰衡日来聞二品発向給事於阿津賀志山築柵壁固要害国見宿寺後山之中間俄構口堂塔堪入違限河流

西木戸太郎国衡為大将軍著金剛別當秀綱其子下須秀太郎秀方已下二万騎軍兵八ヶ山内三里之間健士充満如之於苅田郡又構城郭

国立国会図書館　タイトル『大日本国東山道陸奥州駅路図』　請求記号　亥二-182

ガラス使用

亥二
182

国立国会図書館　タイトル『大日本国東山道陸奥州駅路図』　請求記号 亥二-182

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『大日本国東山道陸奥州駅路図』　請求記号　亥二-182

ガラス使用